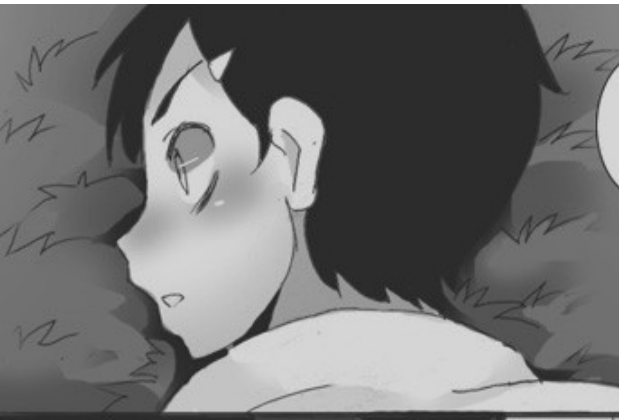




妖園の乳奴 2





ごく普通の人間である
楠見葵（くすみ あおい）は
目を覚ますと
見知らぬ森で倒れていた



土地勘の無いまま闇雲に逃げた結果
足を滑らせ転倒し気を失ってしまい
さらにそんな彼女の前に現れた
ナツメと名乗る怪物達…「妖魔」達の
長である女に捕われてしまう

何故自分がこの場所に倒れていたのか
自分では解らない彼女の前に怪物が現れ
混乱する彼女を捕えようとするが
寸での所で謎の子供に助けられ
その場は何とか逃れる事が出来た…が



おお？
人間じゃねえか
これえ！



彼女は捕えた葵を
自分の「所有物」にするべく
彼女の乳首から体内に妖力を注ぎ
身体を支配する刻印を刻み

さらに性的刺激を受けると
多量の母乳を垂れ流す
乳房へと造り替えてしまう

—その後

あぐ

あぐ

あぐあぐあぐ

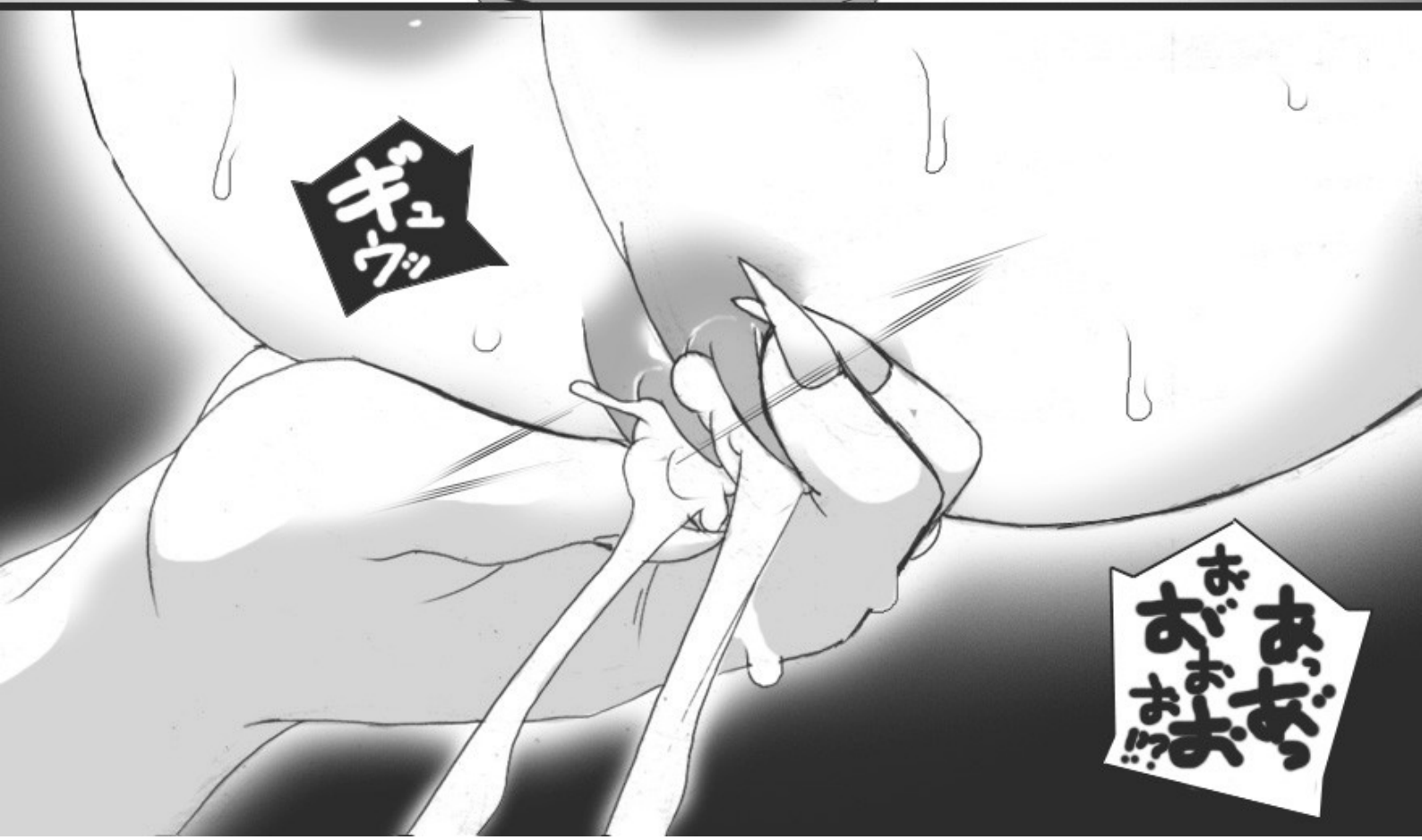
あぐ

ビュク



ギュー

あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ



ん？
また止まってしまったか

やれやれ…
これだけ時間をかけて搾って
まだ受け皿の半分程度しか
乳を満たせないとはな

まだ日が浅いとはいえ
この量はお前の身体が
熟し切ってないのも原因か



だが我が呪印の効果は
よく効いているようだ

お前の「気配」を
どこにしようと
察する事が出来るし



フッフ…
お前の手足は今
私の意のままだ

お前の身体をこうして
「支配」する事も容易に出来る



自分の身体が
自分の思い通りに儘ならない
そんな状況で身体を弄られるのは
さぞかし怖からう…



ん

ん

呪印を刻まれた人間は
刻んだ妖魔の隷属として
その身全てを掌握される

その気になれば
「壊す」事も容易に出来る

それにしても
せめてこの受け皿程度
いっぱい乳が出なければ
ここの「連中」を満足させる等
無理な話だな！

どれ「こっち」の
刺激を強めてみるか

ふあっ！

うおおおお
おおおお！！

クク…
膣も大分「広く」なったから
もっと荒く動かしても
もう問題無さそうだしな

つい先程まで
処女膜が付いていた狭い膣が
今なら妖魔の逸物も
入るほどに拡張したぞ

その際に膣内の肉壁に当たる神経を
全て快感を感じるように造り替え
どんなにきつい挿入でも
快感を感じるようになっていた筈

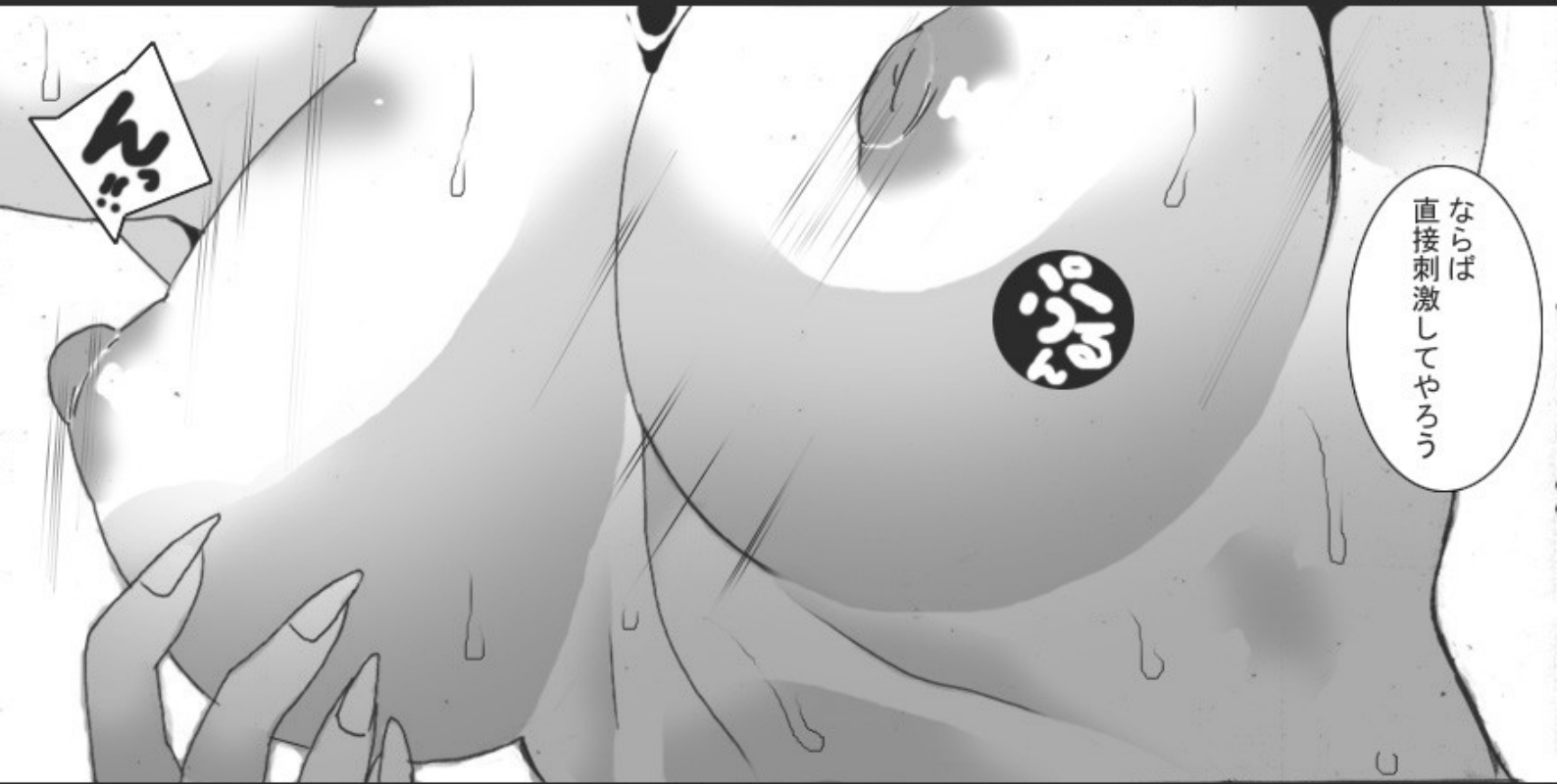
乳腺から多量の乳が
生成される筈だ

その快感が
お前の乳腺にも伝わり

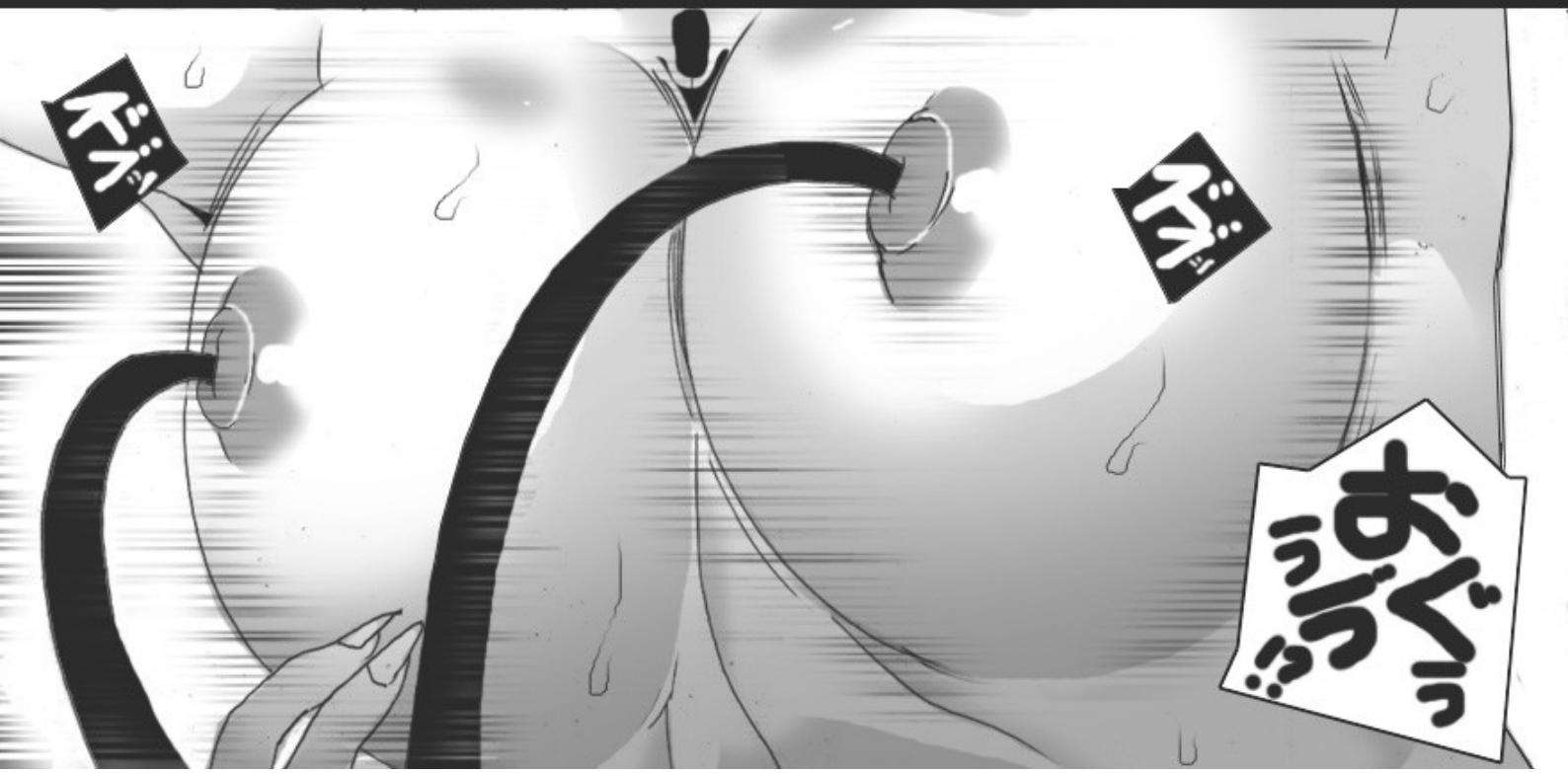
ハヤ
あああ
あああ



…だがこれでも
まだ乳の出は悪いか



ならば
直接刺激してやろう





ココを直接弄られるのは
膣の一番敏感な場所を
弄られるのと同じ事

お前の乳腺も
今や性感帯の塊

あああああ
あああああ



これで
残りの乳をひねり出せ

ひんやり
りやあ

あーっ!!
もーっ!!
あーっ!!
もーっ!!

ぐゅ

ぐゅ
ル

何故私はこんな
異世界ともいえる場所にいるのか

何も解らないまま私は
妖魔と名乗る彼女に身体の自由を奪われ
処女を散らされたあげく

胸とアソコをおかしくされ：
特に胸は少々の刺激も快感となり
快感を感じた乳首からは
牛乳のような母乳が
振って開けた炭酸水のように
溢れ出た

彼女に身体を
好き勝手弄ばれるとき以外は
この館の座敷牢に放置され
この時は自由に動けたけど



そんな気力
今の私に湧く筈もなく

運ばれてくる食事は
人間の私でも食べれるものだったけど
扱いは檻に入れたペットのようだった



帰りたい…
でもどうすれば…



皆突然私が消えて
心配してるかな…？



本当にヤルのかよ？
アタシら「試飲」を姐御から
仰せつかったただけだろ？

ギィ

ゲヘヘ
ナツメ様が壊さなければオラのイチモツを
コイツにぶち込んでもいいって
言ってくれたんだあ

この人間のマンコは
もうオラ達の大きさでも
許容できるくらい広くしたんだと



大丈夫だってえ
ナツメ様を怒らせるような事は
オラ絶対しねえから

「壊さなければ」だろ？
お前大丈夫かよ？
加減できるのか？

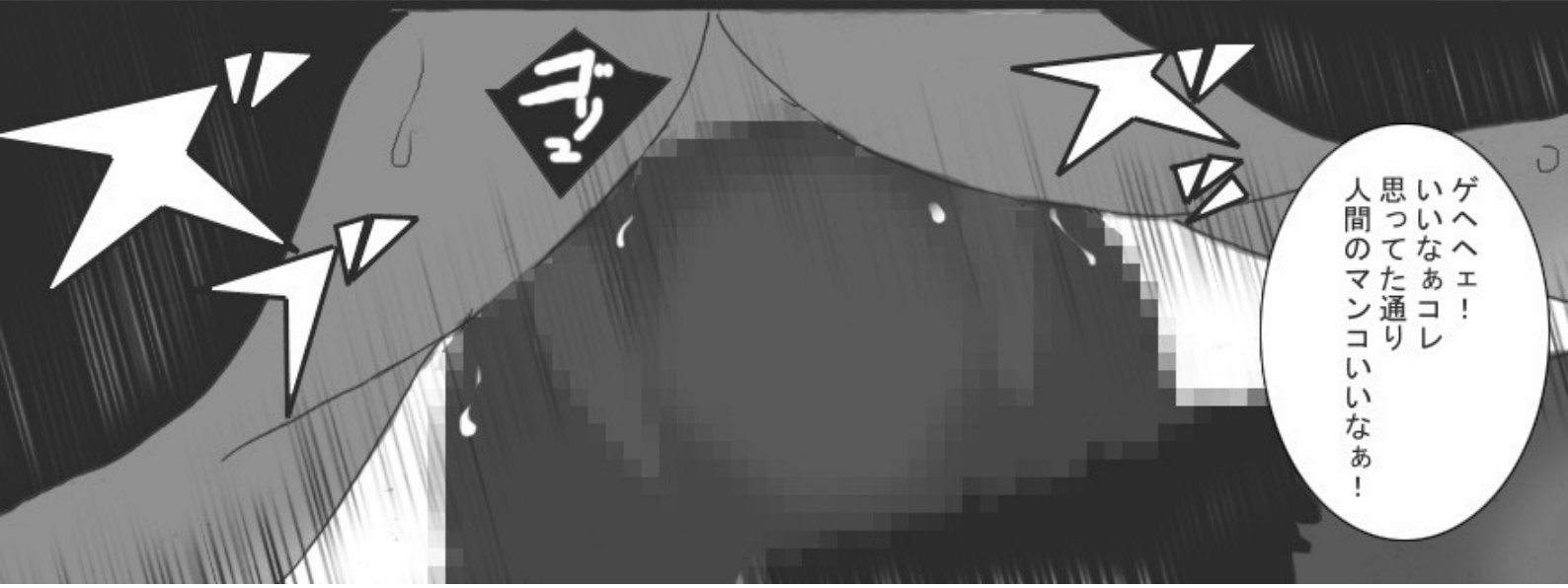
あの三人：
特にイツカク（一つ目）にあの人間を
任せてよかったので？
アレは下手するとあの人間を
壊しかねないですが…

アイツは相当碧の事が
気になってたみたいだからな
まあ壊されても困るから
後二人つけたのだが…

碧の身体はまだ若すぎる故
調教もなかなか進まないが
乳のほうは充分
我らの口に馴染んだはずだ

あの三人の評価が悪くなければ
碧を「乳奴」として
宴の席で使いたいと思っている

若い娘の乳奴は
何年ぶりか…
宴の時間が楽しみですね



く、くるし……っ
ひきっ!!

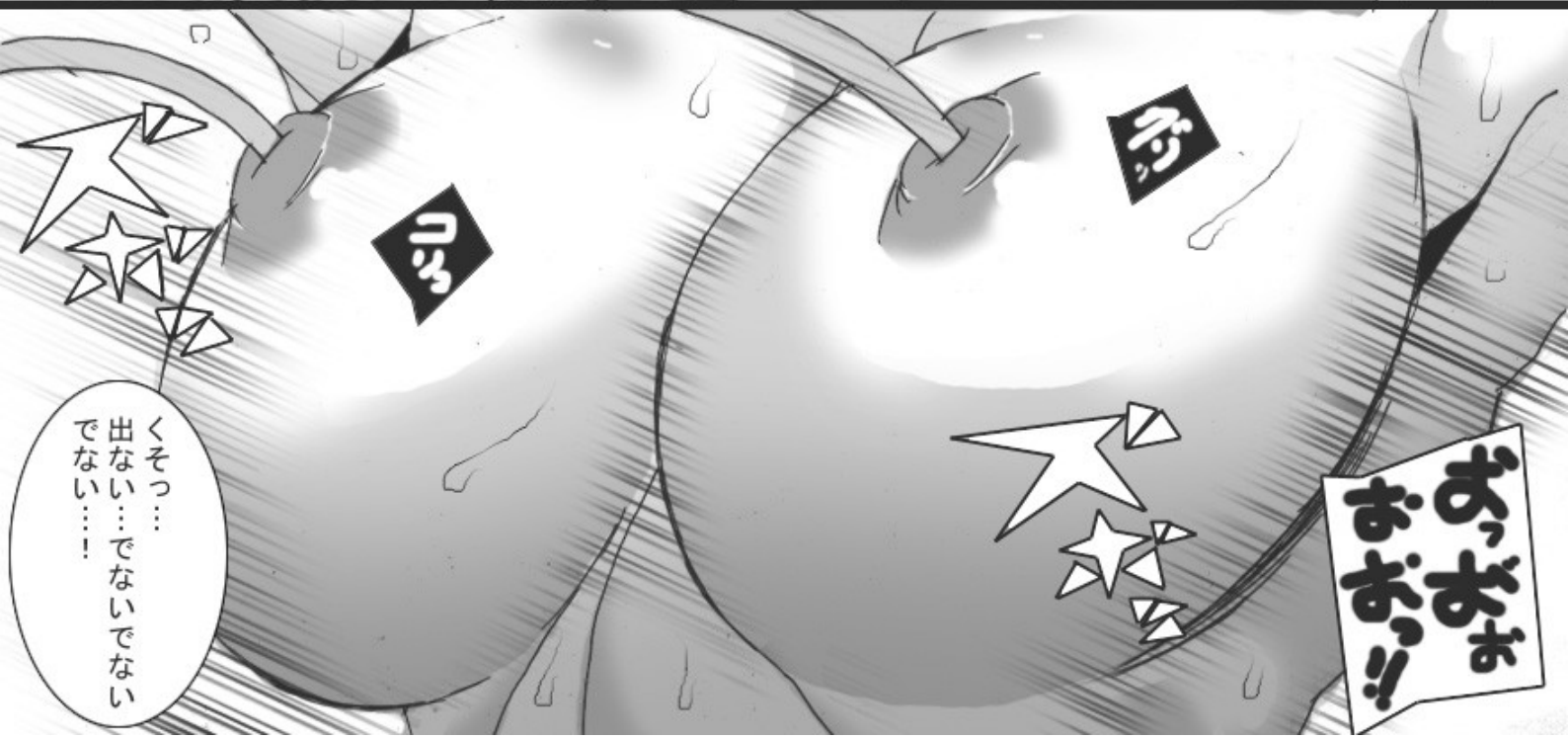
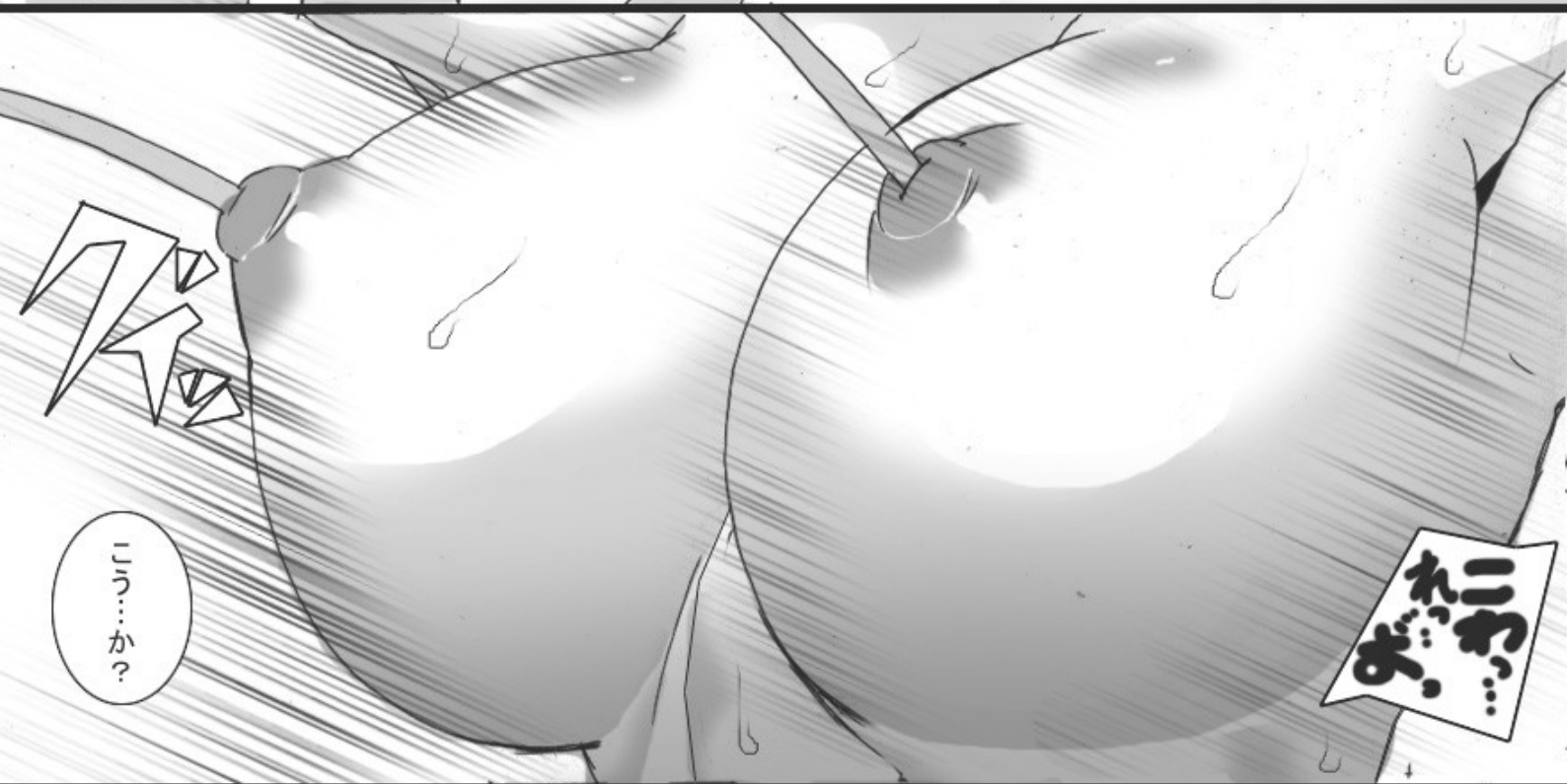
やわらけえヒダ肉が
オラのイチモツを程よく締め付けて
すげえ気持ち良いぞ人間のマンコはあ

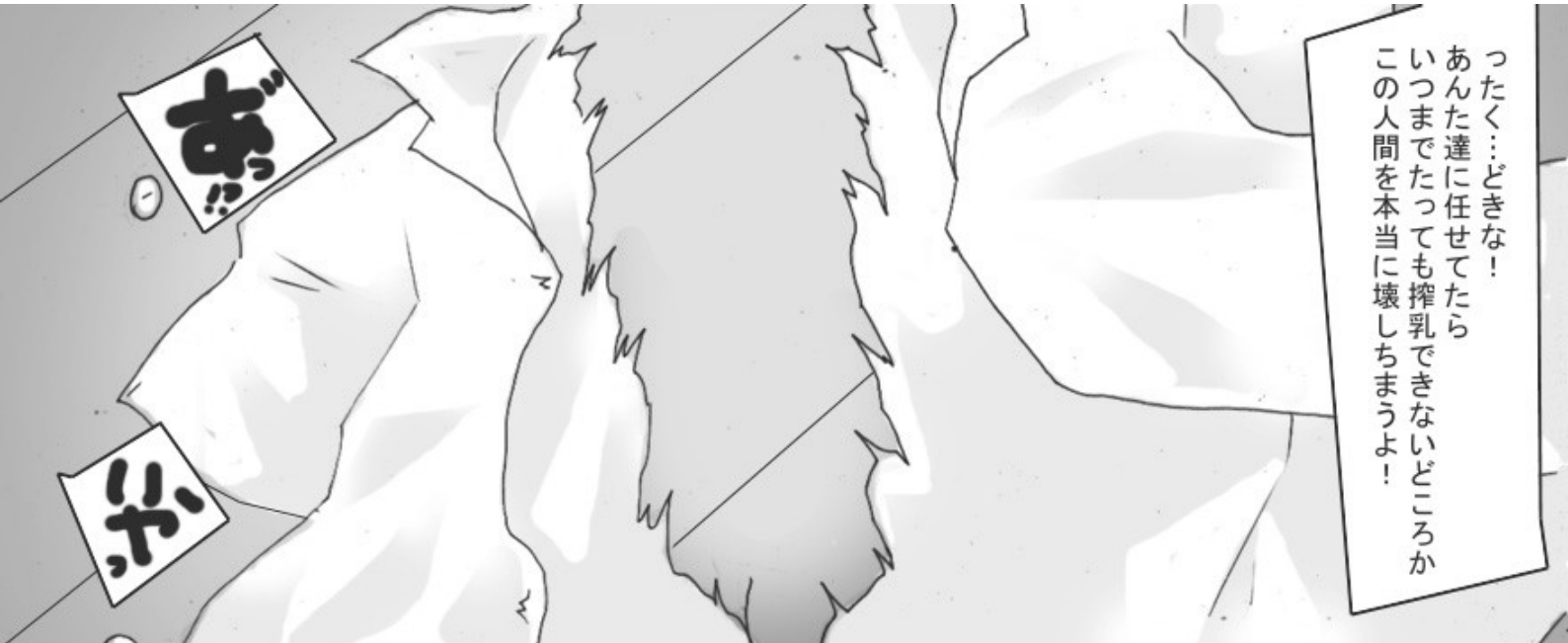
おい！
もう一度言うけど
本当に壊すなよ！

「アンタらがどうなろうが
知ったこっちゃないけど
アタシまで姐御に
どやされるのは勘弁だからな」

おめえも弄つてみればわかるつてえ
 なんで昔の連中は
 人間をわざわざ生け捕りにしたのか
 今ならオラわかるぞ！

んぐ
ぐ





ったく…どきな！
あんた達に任せてたら
いつまでたっても搾乳できないどころか
この人間を本当に壊しちゃおうよ！



いくら姐御に
身体を弄られたからって
ただでさえ人間の脆い身体してんのに
あんな力任せな愛撫じゃあ
乳なんか出るわけないだろお

アタシが搾ってやるから
あんた達は見てな



ナツメの拘束が無くても
私の抵抗など
彼らには全く通じないし

本当だあ旨え！
乳奴の乳はオラ初めて飲んだけど
こんなに旨え飲み物だったんかあ！

どんなに喚こうと拒もうと
彼らは私の言葉など
聞く耳持たずだった…

私は…私の身体は
ただ彼らを愉しませる為の
「物」だった…

そうそう
そうやってコイツが感じる部分を
じっくり擦ってやればいいんだよ

出た…！
俺…でも…
乳を搾る事…
出来…た！

訳も解らないまま捕われ
身体をおかしくされたうえに
その身体を好き勝手玩具にされ

私はもう…

まぐ

お

ん…フフ
あの三人に大分荒く
弄られたようだな

はま

乳首から
乳腺まで繋がる乳管が
大分緩くなっているわ

まだ「乳奴」としては
調教途中だというのに

ぐん

コッ

コッ

ぱる

だがあの三人の報告では
乳の量と味は申し分無かったと
あったし

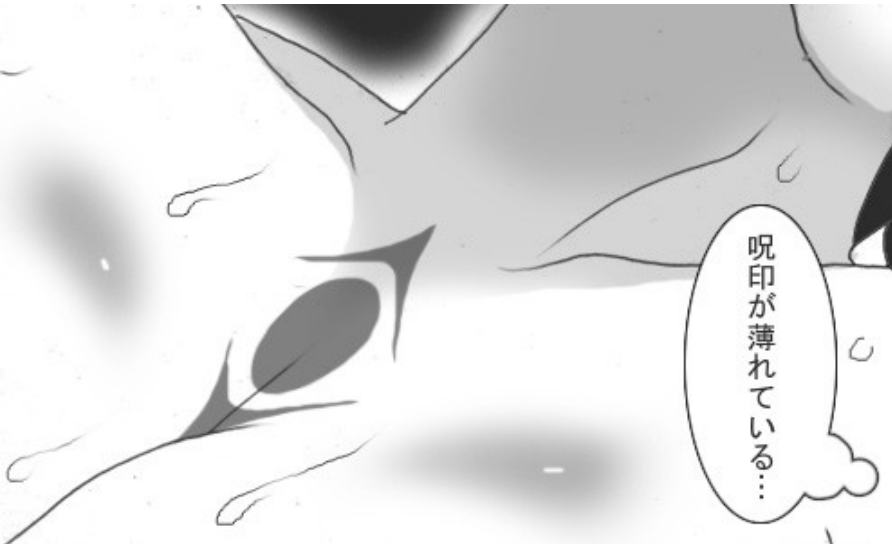
近いうちに「宴」を開いて
お前を使ってみるのも
いいかもしれんなあ

んんん

うううう
うううう

あ

あ



呪印が薄れている…



!



まだ年齢的に未成熟故に
身体と心が安定していない

だから我が呪印も定着せず
時間が経つと消えてしまうのは
予想していたが

まさか五日程度で効果が
薄れ始めてしまうとはな



もう…やめて下さい！
こんな事っ…うっ！



も…うっ

ん？



無理だな

例えば私が
お前を手放したとしても
お前は元の世界には
二度と戻れんよ



もう…
帰りたい…
帰して…

ニッ



…筈だったが

えっ!?

お前達人間が住む世界と
我ら妖魔が住む世界は
この星(地球)に存在する
同じ世界線でありながら
次元の壁に阻まれて
交わる事の無い別々の世界だった

はま



お前達の世界の伝承にも
「妖怪」やら「モノノ怪」と呼んで
今でも言い伝えられているだろう?



いつからかこの国(日本)を中心に
次元の壁が薄れていき
我ら妖魔は地力で次元の壁を越え
お前達人間界に
侵入する事が出来たのだ



それに比べ人間は
我々のような力を持つ者は
ほんの一握り：
道具を使わなければ
碌に戦えない人間など
我らにとってはただの獲物にすぎず
気に入った人間を我らの世界に攫っては
食べるなり奴隷にするなりして
飼っていたのだ



だが八百年前：
そのほんの一握りの「力」を持つ人間が
人間界と我らの世界の間に
再び行き来出来ない程の「壁」を作り
我ら「妖魔側」からは人間界に
一切干渉出来なくなってしまった

方法はよくは知らんが
一人の強力な力を持った巫女が
我らが人間界に行くように
こちらの世界にやってきて
人間界と妖魔界両側から
何らかの術を用い
壁を張り直したらしい



だからこちら側からは
お前の生まれた人間界に
行く手段が無い
例え私でもそれは無理だ

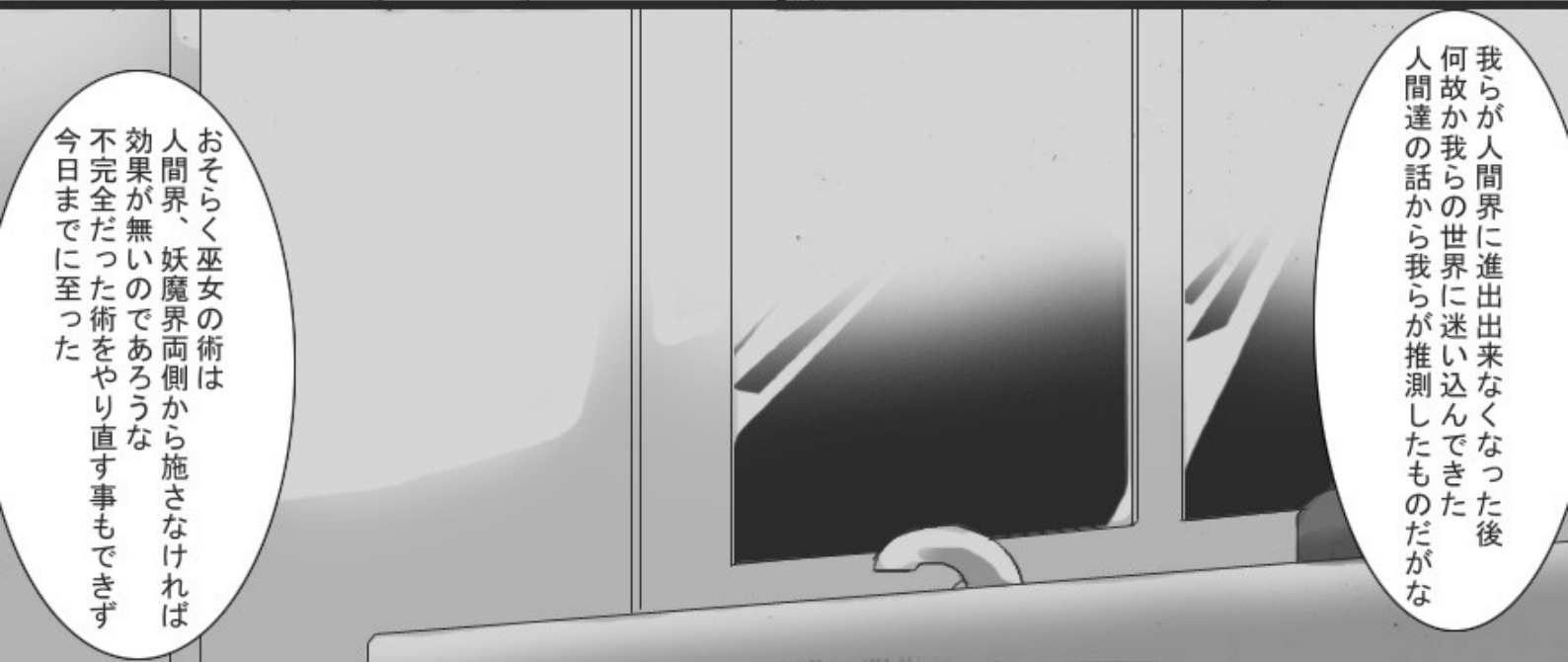
それほどまでに
その巫女の力は強力だったのだが：
「人間界側」はそうではなかった



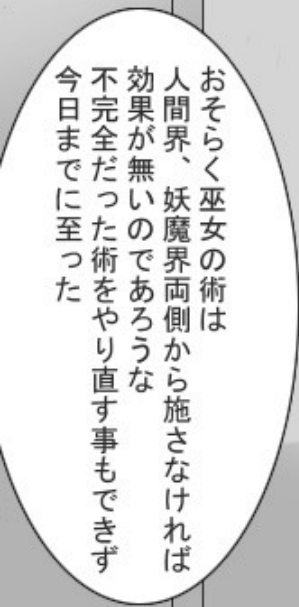
稀に次元の壁が薄れ
その場にあった「モノ」を
我らの世界に引きずり込んで
しまうらしいのだ



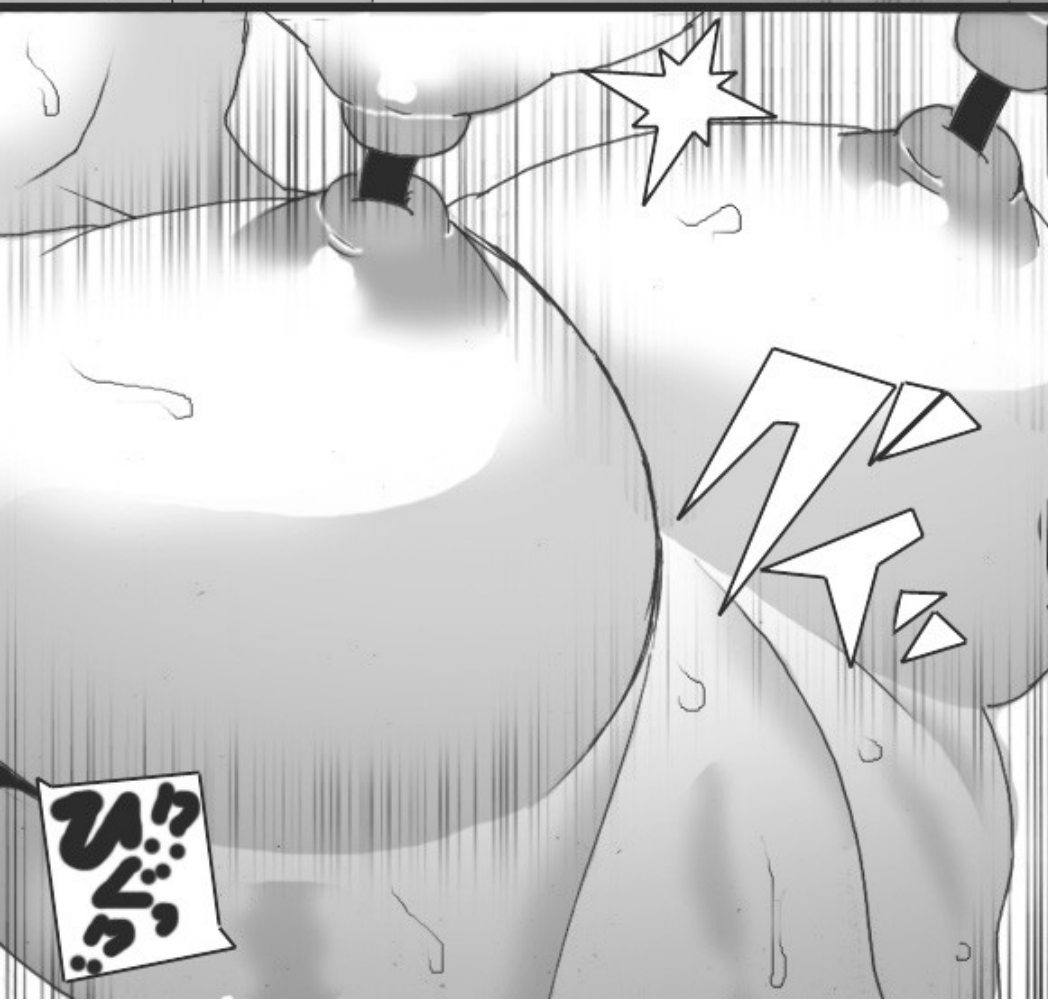
身を挺して妖魔界に残った
巫女の力は確かだったが
人間界側から施された術は
少々不完全だったようだな



我らが人間界に進出出来なくなった後
何故か我らの世界に迷い込んできた
人間達の話から我らが推測したものだがな



おそらく巫女の術は
人間界、妖魔界両側から施さなければ
効果が無いのであろうな
不完全だった術をやり直す事もできず
今日までに至った



ひく
ど



お前がこの世界に
飛ばされてきた理由は
そういう事だ

私から離れたとしても
待っているのは他の妖魔に捕われ
食われるか飼われるかの
どちらかしかお前には待っていない

あああ
あああ

ズ

ズ

ガ
グ
ッ

ズ

はげ
しく

ガ
グ

それならお前を気に入ってる
私に飼われてたほうが
まだ生き延びれるかもしれんぞ？
ククク...

やめっ...くあ！
こわれ...るっ
壊れちゃううう！



つづく